

広報

まちづくり情報誌

小田原

city of odawara public relations

11 2005
NOV
/1日号

		た	未	小	大	今	
		め	来	田	切	考	
		に	へ	原	な	え	
			つ	の		た	
			な	風		い	
			げ	景			
			る				

小田原風景考

— 自分さがし まちさがし —



私たちの心の中には、懐かしい風景が残っています。

子どものころ、駆け回った野原。波から逃げられず、ずぶぬれになった海岸。家族と出掛けたお祭り。

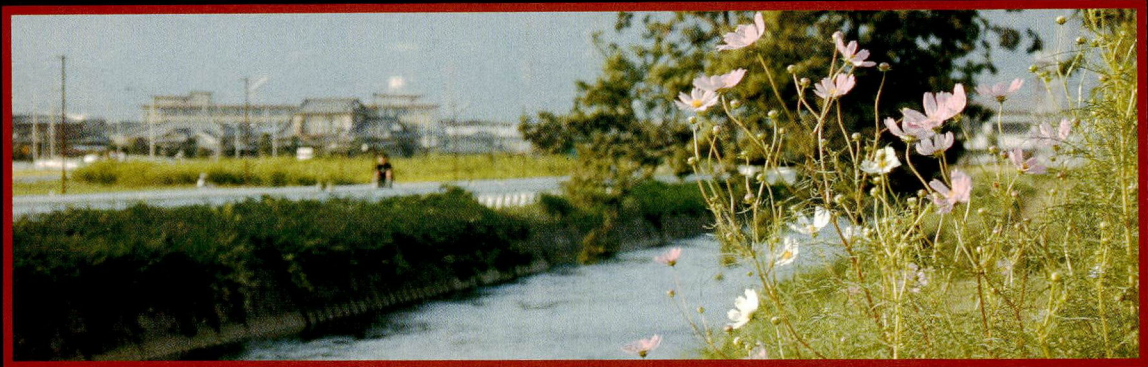
それは、美しい思い出とともに、私たちの心の中にあるものです。

それを、「昔はよかった」と懐かしむだけでよいのでしょうか。

未来を作るために、私たちがはぐくみ、はぐくまれてきた風景を次の世代へ引き継がなければならないのです。今あるもの、そしてこれから生まれ来るもの、小田原の風景であることを忘れてはならないのです。

あなたの心の中の風景は、きっと、あなただけのものではないのです。小田原の風景を考える。

それは、自分自身を見つめ直すことなのかもしれません。

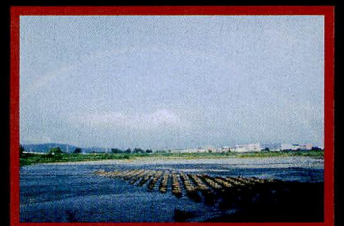


◎特集

小田原

風景考

[自分さがし まちさがし]



ぼくに、きせきが起きた

〈少年の日記「ぼくは、チビだ」より引用〉

ぼくは、いつもみんなから「どうしてそんなに小さいの?」とか、「チビ、チビ」と言われる。下の学年の子からも言われてばかりでとても悲しい気持ちになる。

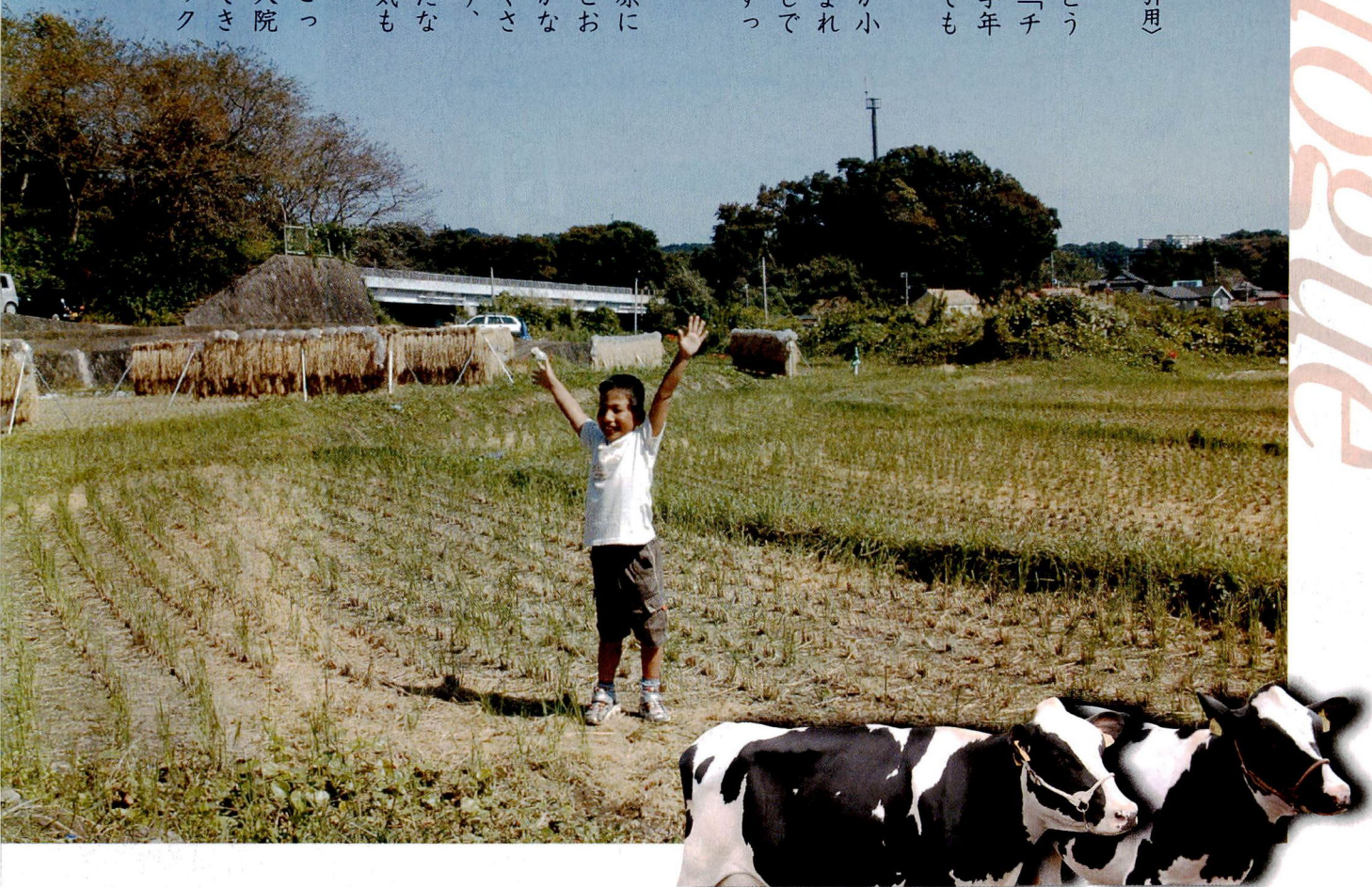
だから今日は、どうしてぼくが小さいのかを書きます。ぼくは生まれたとき、小さかった。みじゅくじで生まれた。生まれたときから、ずっとずっと入院していた。

(略)

小学校に入る少し前に、小田原に引っこしてきた。おじいちゃんとおばあちゃんの家。すぐくのどかなところでビックリした。牛がたくさんいたり、畑や田んぼがあったり、自然がいっぱいあるいいところだなあと思った。ここならぼくの病気もなおるかもしれないと思った。

そしたら本当にきせきが起った。小学校に入ってから一回も入院も、いたくて大きらいな、てんてきもしてない。病院の先生もビックリしていた。

(略)



この景色が、

ぼくに

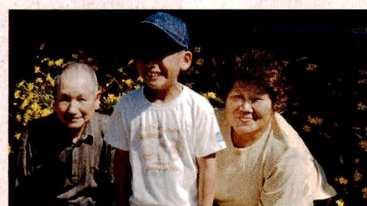
元気をくれた

目を閉じて、あなたにとっての「ふるさとの風景」を想像してください。

身近な風景が思い浮かびませんでしたか?

日々、当たり前のようにある暮らしや風景。

それが、実はとても大切なものなのかもしれません。ここに、それを強く感じている一人の少年がいます。



大好きなおじいちゃん、おばあちゃんと

この日記を書いたのは、下中小学校5年生の小嶋聖矢君。3歳まで病院から出たことがなく、いつも遊びに来てくれている人のお父さんとお母さんだと分かったのは、6歳のときだったといいます。

体の弱い彼のために、空気のきれいな場所に住もうと、家族で小田原に引っ越してきました。1年生のときの体育は見学ばかり。風邪を引くと肺炎になってしまう。そんな彼でしたが、今はそれが想像できないほど元気いっぱい。いろいろな話をしてくれました。その中でも、大好きな「おじいちゃんの田んぼ」の真ん中で聞いた、この言葉がとても心に残りました。

「ぼくのふるさととはね、ここだよ。いいところでしょう?」

この風景が仕事場です

小田原を象徴する二つの風景、酒匂川と御幸の浜。
ここでは、そこを舞台に働いたがたにスポットを当てます。
私たちがその風景を思い浮かべるとき、そこには彼らの姿があるかもしれません。
彼らの言葉から、その風景の持つ魅力、そして守り続けるための課題を探ります。

母なる酒匂川に 抱かれて

酒匂川と聞いてイメージするのは、土手に続く松並木やサイクリングコース、アユ釣り、水面を飛ぶ鳥たちなどいろいろ。
しかし、忘れてはならないのが、その清流の恵みを受けて流域に広がる田園の風景。近年、都市化や従事者の高齢化などにより、水田は減少しているが、小田原の米作りに誇りを持ち、田んぼを守り続ける人たちがいる。

東京方面から小田急線で仕事や遊びから帰ってくるとき、窓の外に広がる田園風景を見て、「わが家は近い」と感じる人も多いだろう。

「学校を出て、普通に会社員を13年やっていた。今50歳だけれど、農業を始めてまだ20年。米作りのほうがやりがいもあるし、面白いよ」

そう語るのは、報徳小学校の近くで農業を営む井上幸一さん。



井上幸一さん



妻・恵子さん

以前は、夫婦二人で作業していたのが、息子が加わり、3人になってだいぶ楽になりましたね。息子が継いでくれて、本当にうれしいんです。
(写真左：長男の伸幸さん)



四季折々変わる田んぼの風景。秋には、酒匂川の栄養を吸ってすすくと育った稲が黄金色に輝く。刈り入れるのは、ちょっともったいない？

小田原の米は本当にうまい。 酒匂川のおかげだよ。

酒匂川の豊かな水の恵みにより、連綿と受け継がれてきた、この地域の稲作。酒匂川と流域の水田は一体となつて、小田原にとって大切な風景を形づくっている。しかし、田んぼの数は徐々に減り、やがてその風景を失ってしまうのではないかという危惧すら感じる。全国的に農業が抱える問題、農業従事者の高齢

「小田原の米は、本当にうまいよ。酒匂川の水が米作りに合っているんだろね。やはり、酒匂川あつての小田原の米。もち米みたいに柔らかくて、粘りが強い。コシヒカリと比べたって負けないう。買った人から、『おいしいよ。また頼むね』と言われるのが一番うれしい。でも、市民があまり知らないでしょ。もっと市民にも知ってほしいね」

化や後継者不足は、小田原でも例外ではない。
「自分の田んぼのほかに、高齢で米作りをできなくなった、よその田んぼを借りて管理しているんだよ。今は、そういう田んぼもかなり多い。周りでできない人が増えて、田んぼが減ってくると厳しいよ。水も、地域の人々が当番制で管理しているからね」
そんな厳しい環境だが、「私は、まだまだ農業を続けていきたいんだ。今年は新型のコンバインを購入したしね」と井上さん。その父親の姿を見て、長男の伸幸さんも農家を継ぐことを決心した。5年前に県立の農業アカデミーを卒業し、現在、両親と一緒に家業に従事している。

酒匂川は、周辺にさまざまな恩恵を与える一方で、かつて幾度も大雨で氾濫し、被害も与えてきた。現在は堤防の整備が進み、そのようなこともめつたにないが、農家を悩ませるのは、やはり雨や風。
「当然、天候はいつも気になるよ。自然の力には勝てないからね。用水路の水量を見れば、上流で大雨が降っているかが分かるんだ。雨ばかり続くとどうにもならない。でも、今年は大きな台風が少なかったから、刈り入れが例年より1週間くらい早くできた。今年の米は最高にいいよ」と、夏場の農作業で真っ黒に日焼けした顔で、井上さんは微笑んだ。

撮影：石川尚雄さん

優しくも 雄々しい 御幸の浜

かつて多くの文人歌人も愛した
小田原の海、御幸の浜。
三浦、房総半島や伊豆半島を
一望に見渡す雄大な眺めは
今も色あせない。
いま一度私たちは、
すぐ近くに海がある幸せを
感じるべきかもしれない。

西湘バイパスの開通や砂浜の減少などにより、その姿を変えてきた御幸の浜。しかし、夏には、家族そろって、あるいは友達同士など多くの海水浴客でにぎわう、以前と変わらない光景がある。

「海の近くで生まれ育って、子どものころから海は生活の一部。学生のときにサーフィンを始めて、その流れでこの仕事に就いてから20年近くになる」と言うのは、海水浴シーズンに、御幸の浜で監視・救助業務をしている佐藤泰彦さん。

この仕事は、ライフガードやライフセーバーと呼ばれ、夏の海水浴場には欠かせない存在。御幸の浜には、併設の市営プールと合わせて1日に20人ほどが勤務している。その大半は大学生のアルバイトで、佐藤さんはリーダー役。シーズン以外は、勤務先のスポーツ施設に戻り、室内プールの監視・指導員をしている。

県内のいくつかの海水浴場で働いてきた佐藤さん。

「湘南から小田原へと向かってくると、二宮あたりを境にして海の姿が大きく変わる。透明度も深さも全然違う。海水浴場は遠浅のところが多いけれど、御幸の浜は深いでしょう。波には力があるし、高い。潮の流れも速いよね。監視する側にすれば大変だよ」

苦労はといえば、「波の高さを見て、1日に数回、遊泳可か禁止かを判断するのが難しい。海は、刻一刻と表情を変えているからね。漁師さんと話し合って決めるのだけれど、お客さんは当然泳ぐのを楽しみに来ているから、泳げなければ怒ったりもする。だけど、我々の仕事は、事故を未然に防ぎ、

シンガー・ソングライター
白井 貴子 さん



幼少のころから、相模湾の黒潮を眺めてきた白井さんは、海をこよなく愛する。「海を見ていると、幸せな気持ちになります」と語る。

環境活動に積極的に取り組み、10年ほど前から月に数回、散歩がてら湘南海岸のごみ拾いをする。その拾ったガラス玉や流木、ごみなどを使ってオブジェも作る。単なるごみ拾いだと思えば楽しみなが、作品の材料集めと思えば楽しいと考え、始めたと言う。

4月には、城址公園内の小田原城ミュージーゼで作品展を開き、その会期中に御幸の浜の清掃も行った。白井さんの呼びかけで約90人が参加。

「たばこの吸い殻が、1時間で1,500本も集まりました」。ほかに空き缶や衣類なども回収した。

「ごみが海に入れば、魚にもよくないでしょ。その汚染された魚を私たちが食べるんです。私たちの行動は自分たちに返ってくることを、もっと意識するべきですよ。家庭の台所だって、川や海につながっているんです。洗剤の使用を減らすなど、いま一度ライフスタイルを見直す必要があると思います」

自然が汚され、減っていくことを嘆く白井さん。「自然の美しさを大切に、これ以上よいものを失わないようにすることが大事ではないでしょうか」



白井貴子(しらい・たかこ)
1981年デビュー。女性ポップ・ロックシンガーの先駆者的存在。1996年から3年間、NHK「ひるどき日本列島」にレギュラー出演。2001年、神奈川県内の21世紀の合唱曲を作曲。今年11月1日でデビュー25周年。テレビ、ラジオ、CMなど多方面で活躍中。



いざというときの救助活動に欠かせないレスキューボード。これを使って、多くの命が救われてきた。

夏の御幸の浜はおれが守る。

「海水浴客の皆さんには、海岸のマナーを守ってほしい。自分が出したごみは持ち帰ること。多いのは、たばこの吸い殻だね。熱海のサンビーチは、今年から禁煙になったよ」

以前は1、2年で別の海水浴場に移ってきた佐藤さんだが、「御幸の浜に来てから、気がついたらもう8年になる。近所の人たちとは、すっかり顔なじみ。いろいろな海岸を見てきたけれど、小田原の海が大好きなんだ。青

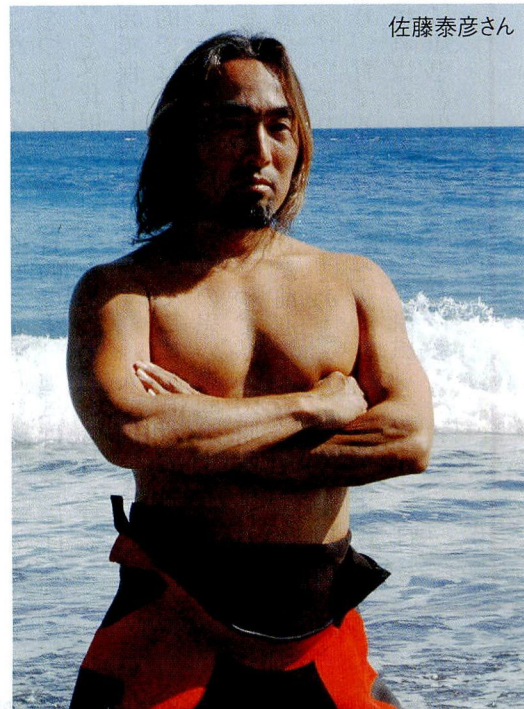
お客さんを守るからだ。つらいけれどもしかたがないよね」
朝、海岸に入るのは、海水浴客が来る1時間以上も前。

くて、とてもきれいな小田原の海がね。これからも、ずっと続けていきたいなあ」と、男らしい風ぼうに無邪気な表情をのぞかせた。
1年のうち、夏の約2か月間だけの仕事。佐藤さんたちがいるからこそ、夏の御幸の浜には変わらぬ光景が続いている。



海水浴客が楽しむ後ろには、事故を見逃さない厳しいまなざしがある。

佐藤泰彦さん



ご存じですか？

御幸の浜は、明治6年、明治天皇と皇后が小田原の地引き網を見学され、以来「御幸の浜」と呼ばれるようになりました。

近年、海岸の浸食が進んでいますが、現在、県がその対策として、土砂を搬入したり、沖へ移動する砂を止めるための人工リーフ(潜堤)を設置したりしています。この工事により、砂浜が少しずつ戻ってきています。

ふるさととの原風景百選

あなたが小田原とつながる
あなたを地域と結ぶ

だから、今、小田原の原風景百選

今、人々は自分の暮らし
いるまちが、かけがえのない
ものであることに気づき始め
ています。安らぎのある心豊
かな暮らしを送るためには、
そこに住む人々の協力と、環
境を整え、守っていくことが
重要になります。そして、そ



のような地域を創造し、再生
するのは、そこを心のふるさ
とと大切に思っている人たち
なのです。

まちづくりには、市民の皆
さんが、自分の住むまちとつ
ながっていることを実感し、
小田原に愛着と誇りを持つこ
とが大切です。一人一人を地
域に結びつけるのは、住んで
いる人の心の中にある大切に
したいと思う風景です。それ
が「原風景」なのです。自分
なりの原風景を探すことは、
小田原に住んでいる自分の歴
史を見つめ直すことです。

時代の移り変わりとともに
に、地域や小田原は、姿を変
えてきています。かつての風
景が姿を消し、新しい風景と
して生まれ変わったところも
あります。また、懐かしい風
景がそのまま名残をとどめて
いるところもあります。



大切にしていきたいと思う
風景は、一人一人違います。
したがって、それは、行政や
学識経験者が決められるも
のではありません。市民の皆
さんが決めることです。お互
いの心にある原風景を認識し
合って、小田原の共通の財産
として、その価値を共有する
ことからまちづくりが始まり
ます。

原風景を選定する事業は、

市民の皆さんが選んだ心の
中の風景に優劣をつけたり、
選定されたものを文化財の
ように制限を加えて保存した
りすることが目的ではありません。
皆さんがこの事業に
参加していただくことで、
私たちが住む地域や小田原の
価値を確認し合って、誇りと
愛着を持ち、守り、育てるた
めに、何をしなければならな
いのか、お互いに知恵を出し

合い、活動につなげることが
目的です。地域はそこに住む
人々によって守られ、育てら
れます。一人ではできなくて
も、そこに暮らす人々が、ま
ちへの思いを同じくすること
によって、小田原のまちづく
りが前進します。
このような目的を実現す
るためのきっかけづくりと
して、原風景の選定事業はス
タートしました。

懐かしさと出会うまち 「板橋」

Vol.1

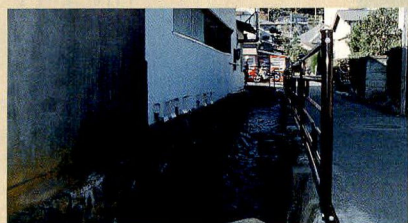
板橋はたくさんの寺社があるその閑静なたたずまいと、歴史を感じさせるまち並みから、小田原観光の“通”に人気があります。ここでは、その魅力の一端をご紹介します。

まず、箱根板橋駅から松永記念館へ歩いてみましょう。



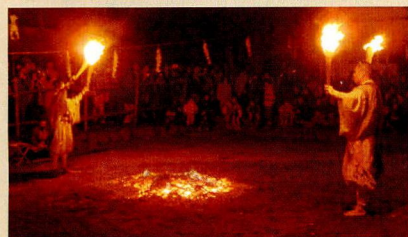
▲板橋のまち並み

古い洋館風の建物や蔵などが立ち並び、往時のまち並みが目に浮かぶ旧東海道を歩き、松永記念館へ続く路地に入りましょう。水の流れる音に目をやると、そこには450年以上も前に造られ、歴史的に貴重な水道施設である小田原用水（早川上水）が流れています。徳川家康が、江戸の治水工事のお手本にしたともいわれるこの用水は、今も小田原城のお堀に水を流し続けています。



▲小田原用水

その先には、秋葉山量覚院が見えてきます。歴史あるこのお寺は、毎年12月6日に、密教の秘法を今に伝える「火防祭」を行っています。無病息災を願う儀式ですが、山伏が火渡りなどを行う、その幻想的な世界は、一見の価値あります。



(vol.2へ続く)

市長インタビュー

ふるさとの原風景について

自分の来し方を振り返ると歴史の激変期を生きてきたとしみじみ思います。

それぞれの時期で人の心も価値観も変わってきていて、もちろんまちの風景も、野原や小川なども変わってきています。次代のために守るべきもの、変えていくものは何かを見極めていきたいと考えています。

私の思い、出の場所

今は、ふたがされ遊べなくなりましたが、自宅の横を流れる荻窪用水ですね。水がきれいで魚もいました。



押切の海岸から御幸の浜を望む

子どものころはわんぱくでしたから、そこを棒高跳びのように竹棒を使って飛び越えていました。たまに、失敗して水の中に落ちてしまったこともありましたね。

次に心に浮かぶのは、芦子小学校から山王川方向へ広がる季節感あふれる田園風景です。遊んでいて稲むらを崩して



小田原市長 小澤良明

しまい、その農家のかたがすぐく怒って、追いかけてきて必死に逃げ回ったこともありました。そのかたとは今でも顔を合わせることがありますが、そのときの少年が私だとは知らないかもしれませんね。

また、父の実家に行ったときに、押切の海岸から早川方向を見た海岸線の曲線、潮に煙る風景の鮮やかさ。その自然の美しさは、今でも鮮明に覚えています。

募集！

「締め切り…平成18年1月20日」

あなたの心の中にある

小田原の原風景をお寄せください

小さな路地裏から四季の彩

を感じさせる雄大な風景に至るまで、記憶や思い出に残る小田原の身近な風景をまちの財産として見つめ直し、愛着を深めるために「ふるさと

の原風景百選」を選定します。ふるさととの原風景とともに、それにまつわるあなた自身のストーリーを添えてお寄せください。

問い合わせ先

環境政策課

33 1 4 7 3

電子メール

kansei@city.odawara.kanagawa.jp

FAX 33 1 4 8 7

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/life/iron/oubo.html

☆ホームページからも応募できます。

○国府津窓口コーナー

○酒匂窓口コーナー

○城北タウンセンターいずみ

○マロニエ

○アークロード市民窓口

○支所・連絡所

（総合案内・環境政策課）

○市役所

応募用紙の置いてある場所

色がまちをつくる

「都市」という言葉が生まれるずっと以前から、人は自然と向き合い、色彩感覚はその中ではぐくまれてきました。本市の景観づくりに携わり、現在策定中の景観計画に対しても、色彩を中心に助言をいただいている吉田 慎悟さんに、色が人に与える心理的影響とまちづくりについて、お話を伺いました。

色は生きている

「人が美しいと感じる風景には色彩が大きく関係しています。例えば、伝統的な建造物に注目すると、自然の材質を生かして、その建造物自体が周辺の環境にうまく溶け込んでいます。自然界の色は年月を経ても美しいし、人工的な建造物でも自然材で造ったものは美しく老いています」と吉田さんが静かな口調でゆつくりと話を切り出した。

「チョウウなど

の持つ美しい色は死を境に彩度を失い、やがて低彩度の大地に吸収されてしまいます。色彩やかな花も、その色は刻一刻と変化し、その美しさは永遠ではありません。だから、まちなかの派手な建築物や巨大な屋外広告物などの永遠に鮮やかなものは、とても不自然で、風景としては違和感を感じることになります」と。

「鮮やかな色の看板は、屋上ではなく低層部のショーウィンドーの中などで、季節ごとに演出を変えて使うほう



空・川などの「青」は、自然界では、個体で存在することはあまりない。この景色は、富士山と河原の白色、松の緑など、突出した色彩がないため、風景としてまとまっている。例えば、ここにオレンジ色の鮮やかな看板があつたら風景は台なしになる。

が好ましいのですがね」と全国の例に漏れず、まち並みに商業看板が乱立しつつある小田原の未来にも不安があるという。

色合いを自然から学ぶ

「自然界に倣った色づかいをすることが、違和感のない風景を作り出すことになります。色自体によしあしがあるわけではなく、色彩はさまざまな関係によつてその見え方が決まってくるのです。私たちが特に色を感じるものは、花やチョウなどを持つ鮮やかな高彩度色です。これらは中彩度色の色彩領域にある樹木の緑や、刻々と変化する空の色以上に鮮やかです。そして中彩度の緑や、刻々と変化する空の色を見え方を支えているのは、自然界の基調色でもある地面の土や岩、砂などの低彩度色です。小田原の皆さんが大切にしている色鮮やかな思い出のシーンは、実は小田原の大地

があるからこそ、今でも輝き続けているのです」と柔和な笑顔に白い歯をのぞかせた。

未来はみんなで作るもの

「家を建てるときには、移り変わる自然の色彩に十分配慮しないと違和感のある風景になります。街路樹は、春に明るい黄緑の芽を吹き、夏に向かって色をグリーン系に変えながら明度・彩度を下げ、そして秋にはイエロー系やイエローレッド系に、やがて彩度を落とし、枯れ葉になって散ります。このような自然の色彩変化を妨げ

色彩計画家

吉田 慎悟 (よしだ・しんご)

市景観審議会委員、市景観アドバイザー、市アメニティ推進委員会のアドバイザー、日本デザイン学会会員、公共の色彩を考える会会員、日本色彩学会会員など



懐かしさと出会うまち

「板橋」

Vol.2



趣がある土堀に紅葉が映える松永記念館の入口は、絶好な記念写真のポイント。

香林寺のわきにある道しるべに従い、古稀庵へ歩を進めてみましょう。

路地を進むと、思わず声を上げてしまいそうな竹の小道が現れます。ここは、小田原でも指折りの散策路です。

▶竹の小道



そして古稀庵へ。この建物は、明治の元勲山縣有朋が建てた別荘で、同じく有朋の所有していた目白椿山荘・京都無隣庵とともに、近代日本庭園の傑作といわれています。

今は、あいおい保険小田原研修所となっており、毎週日曜日の午前10時から午後4時までの間、庭園を参観できます。



▲古稀庵

どうですか、板橋に来たくなったでしょう? 11月6日、12日、13日には「板橋秋の交流会」が開かれます。ぜひこの時期の板橋を堪能してください。

心安らぐ風



ないことが大切なのです。そのために、四季折々の豊富な表情を見せる、樹木の多い小田原に家を建てる時には、外装の色の彩度をより低くすることが無難ではないでしょうか」と主張する。

「急増するマンションなどでは、周辺と差別するために、周りにない特異な色彩を使つて目立たせようとしているものが多いとあります。しかし、周りと調和がとれていないとバランスが崩れた風景になります」と一瞬まゆをひそめる吉田さん。

「色に対する趣味は人によって違うので、個人が所有する住宅の外壁色を規制することに反発する人も多いと思います。しかし、たとえ個人の所有物であっても多くの人



の目に触れる部分の色彩使用は、何らかのルールが必要で」と優しいまなざしに徐々に力強さが加わった。

「色彩は周辺との関係が整ったときに美しく見えます。個人の趣味でかつてに色彩を使つていては、まち並みは地域の資産になりません。地域の景観を育てていくためには、個人が所有す

る住宅であっても、その外観は地域景観の構成要素であるということとを認識し、調和に配慮することが必要でしょう」と結んだ。

さて、あなたは吉田さんのメッセージを受けて、何を感じ、何をすべきかを感じ取ることができたでしょうか。

景観法を活用するための環境色彩計画

吉田 龍格



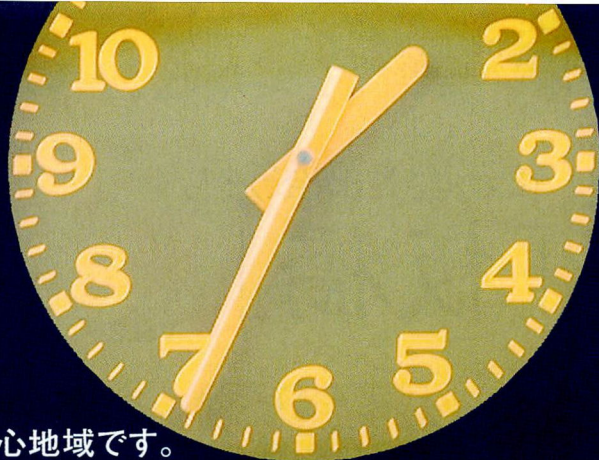
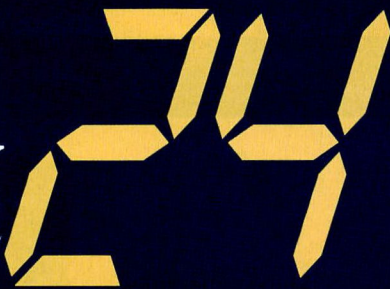
吉田さんの
主な著作

「景観法を活用するための環境色彩計画」(丸善株式会社)／「まちの色をつくる」(建築資料研究社)など多数

活気があふれる原風景
一人一人の思いを乗せて

STATION

ステーション



神奈川の西の玄関口、小田原駅。この周辺は今も昔も市の中心地域です。しかし時は移り、自家用車や郊外型の商業施設が増えるにつれ、その性格が変わってきています。近年、駅東西自由連絡通路（アークロード）の開通や駅前広場の整備、駅ビルのオープンなどで生まれ変わった駅周辺。往時のにぎわいを取り戻しつつあり、再び皆さんの原風景となるでしょう。また新幹線は、旧国鉄の鴨宮基地で開発が進められていたので、「小田原といえば新幹線」という思い出のあるかたもいるはず。今も一大ターミナルとして、一日に約19万人もの人々が乗り降りする小田原駅。東海道新幹線の運行に合わせ、その一日の表情を追いました。



生まれ変わった駅の東口。
12月上旬の完成に向けて、急ピッチでペデス
リアンデッキ（高架歩道）の工事が進んでいる。
西湖地区の顔がまた一つできる。



10:00 駅前の地下街、「アミ
おだちか」ではすべての
店が開店。買い物客が
集まりだす。



6:43 市民の活力や思いを乗せて東京へ向かう新
幹線が到着。ホームには会社員やOLなど
の乗客で、いつもの朝の光景が。
この始発電車とともに東海道新幹線小田原
駅の1日が始まる。

12:00

駅ビルやアークロードでは、
昼食をどこで食べるか悩む
人たちが列になり、おいしい
メニューがあるかと看板を眺
めている。
「早く決めないとお店がいつ
ぱいになっちゃうかな」



7:30 今日の予定を考えながら歩く会
社員や待ち合わせをしている学生な
ど、職場や学校へ急ぐ人々でア
ークロードがあふれる。寄せては返す
波のように、電車が着くたびに人
の流れができる。

小田原駅日誌

6:43

東京へ向けた始発の新幹線がホームへと滑り込んできた。

7:30

通勤・通学ラッシュを迎え、アークロードは学生や会社員であふれる。ホームへ向かう人、駅から出る人でごった返す。

10:00

ラッシュが落ち着き、隣接した駅ビルや地下街が開店。駅前がにぎやかになり観光客が増えてくる。

12:00

お昼時の駅周辺は、昼食を取りにオフィスから出てきた人や、お土産を探す観光客でにぎわっている。

15:00

地下街では、夕食の買い物に出てきた主婦や、ちょっと一休みしながら世間話をしている観光客が楽しげ。

17:00

下校した学生が家路を急いでいる。バスを待つ間にも、時間を惜しむように談笑している姿に若さがはじけている。

18:30

帰宅ラッシュが始まり、朝同様、学生や会社員であふれだす。心なしか足取りが速い。

20:00

アークロード内のベンチが撤去され始める。人々の足の運びが速くなり、帰り道を急ぐという雰囲気ますます強くなる。

21:30

ほろ酔い気分の会社員などが気持ちよさそうにゆったり歩いている。一方、塾帰りの学生は、参考書を片手に早足。

23:40

東海道新幹線の運行が終わり、駅員がシャッターを閉める。在来線はまだ帰宅客を乗せて運行を続けている。深夜2時を過ぎ、長い1日が終わった駅は短い休憩に入っていく...

17:00

バスを待っているのか、地下街のベンチで話し込む学生たち。



15:00

地下街は買い出しをする主婦などで、駅のオープンカフェは一息入れる人たちで、そしてアークロードはベンチで一休みする観光客などで、それぞれにぎわっている。



18:30

交通の要衝である小田原駅は、外国人も多く利用する。英語を話せるガイドがいる小田原城を見学してきたのかな。



21:30

お酒も入ってちょっといい気分のまま、赤ちゃんを横目に家路を急ぐ。「早く帰らないと怒られちゃう」



23:40

この日最終の新幹線を送り出し、新幹線小田原駅の1日が終わった。下るされたシャッターで駅はアークロードから切り離され、静かに夜が更けていく。



伊豆箱根鉄道大雄山線は、道了尊(どうりょうそん)で有名な最乗寺(さいじょうじ)への参けい鉄道として運行が始まった。今年で開業80周年を迎える。

【新幹線以外の4路線】

<大雄山線>

<小田急線・箱根登山線>

<東海道線>



小田急小田原線は、小田原駅から新宿駅までを結ぶ県内鉄道路線の大動脈。箱根登山線は、小田原駅から強羅(ごうら)駅までを結び、箱根観光の一端を担っている。



東京駅から神戸駅までを結ぶ東海道本線。昔から交通の最重要路線の一つ。

味に込められた風景

小田原では、豊かな自然からの恵み、魚や農産物などを生かした料理が昔から考えられています。料理にはそれぞれの時代の風景や思い出が詰まっています。ここでは、現代風に工夫しながら、これからの小田原の新たな味として伝えられる料理を紹介しします。

海のにぎわいを
いつまでも

小田原の魚

小田原が面している海、相模湾は、1千種類を超える魚介類が生息しているといわれる、豊かな海です。

本市には、四つの漁港があり、すが、その中で最も大きく、水産市場のある小田原漁港が水揚げの拠点となっています。小田原は、昔から定置網漁業が盛んで、かつては日本有数のブリ漁場として知られていました。しかし、時代の変化とともに、海を取り巻く環境も変わり、最盛期に比べて漁獲高が減少し、よく取れる魚もイワシ、ウマヅラハギ、アジなどへ変わっていききました。

また、漁業者の高齢化も進み、定置網漁場のいくつかが閉鎖されるなど、厳しい状況にありました。しかし、平成10年に、米神漁場の復活を目指し

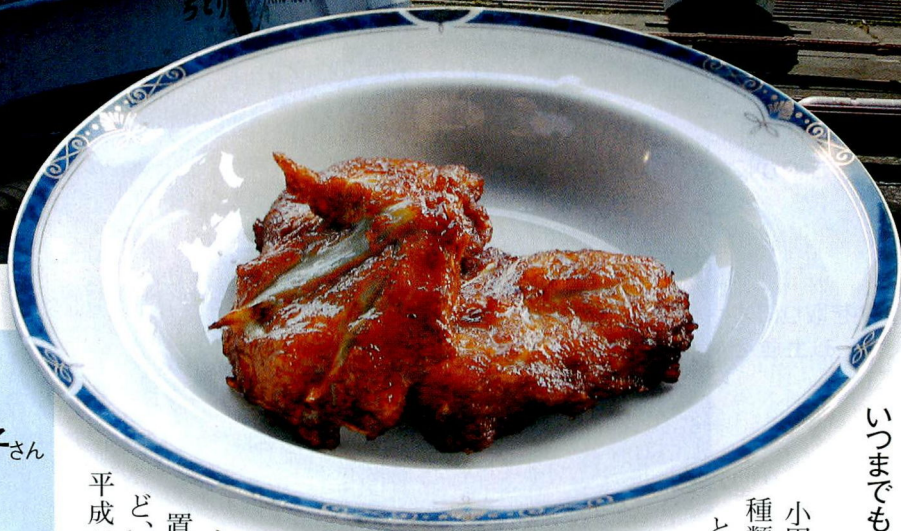
て導入したモデル定置網による効果で、漁獲高が増加し、若い従事者も増え、ほかの漁場の模範となっています。

市の特産品であるアジなどの干物やかまぼこは、相模湾で捕れた海の恵みをいかに保存して、おいしく食べられるか、先人が研究した成果であり、それが現在でも受け継がれているのです。

今回紹介する料理は、「イサキのさつま揚げ」。今の時期は、小型のイサキが定置網で大量にゴツソリ取れることから、地元では「ゴツソリ」と呼ばれています。小さくても身質のよいイサキをどうすればおいしく食べられるか、漁協女性部が試行錯誤の末にできた逸品です。ごはんのおかずや酒の肴にもぴったりの、とてもおいしいさつま揚げ。皆さんもこれを食べながら、小田原の海の風景を思い描いてください。

イサキのさつま揚げ

- ① イサキを3枚におろし、皮をむく
- ② イサキの身を包丁で細かくたたき、すり鉢でする
- ③ みそと砂糖を少量入れて、混ぜ合わせる
- ④ 水にさらした、ささがきゴボウを加え混ぜ合わせる
- ⑤ 適量に分け、形を整え油で揚げる



漁協女性部
松本久子さん
(米神在住)

今、魚料理は、生臭いにおいや骨があって食べにくいなどの理由で、苦手な人が増えているといわれています。しかし、新鮮な魚は匂いしませんよ。小田原では毎朝、新鮮な魚が取れているので、これを食べないのは損です。

漁協では、おいしい魚料理に親しんでもらおうと、毎週土曜日の港の朝市で、魚料理の実演を行っています。魚料理はコツさえつかめばとても簡単。調理方法などもお教えしますので、声をかけてください。新鮮な魚ももちろん売っています。

ちなみに私の原風景はやっぱり海。朝早く漁に出て、潮風の中で船の上から見る朝日はとてもきれいです。





いつの時代も
人々に愛され続ける

小田原の梅



ほ さか
穂坂 昇さん
(曾我別所在住)

曾我丘陵はもともと海岸が隆起した丘で、地中の成分が梅栽培に適しているし、地下水などの水源にも恵まれている。だから、曾我地域では種が小さく果肉が大きい、おいしい梅ができるんだ。それに農作業の効率を上げるために機械も導入しているよ。

小田原の梅干しにはクエン酸が豊富で栄養たっぷり。ただ、人それぞれ好みがあるから、はちみつ漬けにするなど、梅干しの研究を続けているんだ。酸っぱい梅干しが苦手でも食べてもらえるようにね。

私の原風景は家から見える富士山。朝、雨戸を開けるとときには、天気を確認しながら、必ず見ているよ。畑から見える富士山も最高だね。



穂坂さんの梅干しを味わいた
いかたはこのホームページへ
<http://www.umehana.com>

小田原の農業は、酒匂川の流域沿いに広がる水田地帯の稲作と、西部の箱根山ろくや東部の曾我丘陵などの山沿いに広がるミカンや梅を中心とした果樹栽培に、大きく分けられます。しかし、最近では農業者の高齢化などにより、農家数や耕作面積が減っています。そこで全国に先駆け、株式会社やNPO法人などが農地を借りて農業経営などができるよう、「都市農業成長特区」の認定を受けました。これにより、高齢化や後継者不足などで遊休化している農地を減らし、また、首都圏に近いという利点を生かして都市と農村との交流

を強めるなど、農業の復活に向けた取り組みを進めています。市の特産物の一つ、小田原の梅干しは、戦国時代に関東地方をその勢力圏とした小田原北条氏の始祖である北条早雲が、その薬効や食物の腐敗を防ぐ作用などに目をつけ、盛んに作らせたといわれています。現在では、3万本を超える梅が咲き誇る曾我梅林から取れる梅の実と、海の恵みの塩を使った梅干し。ここでも小田原の文化と伝統は、現代まで脈々と受け継がれているのです。今回紹介する料理は「鳥の唐揚げ梅風味」。昔から1日一粒の梅干しを食べるのは健康によいといわれていますが、苦手な人もいるはず。そんなかたでも、おいしく梅干しを食べられるよう考え出されたこの料理は、あっさりとしているので、夏場など暑くて食欲が落ちているときにはぴったりの逸品です。皆さんも、この料理で曾我丘陵の景色を思い描いてください。

鳥の唐揚げ梅風味

- ①鳥の胸肉を食べやすい大きさに切る
 - ②たたいてつぶした梅干しをその肉に塗る
 - ③かたくり粉をまぶし、油で揚げる
- ※お好みで、しその葉をまぶして揚げてもおいしくなります。

あなただけの原風景



東京からこんなに近いのにいい風景があるのはすごいことです。西湘高校に通っていたころは、部活動の映画部で8ミリフィルムの作品を撮っていました。アクション映画などを鴨宮駅の周辺や学校付近の海

岸、城址公園でね。

今では映画学校の講師やプロデューサーとして若手クリエイターと一緒に作品を作っています。撮影場所を決める場合、無意識に県内の風景を選んでいることがあるんですよ。子どものころに見ていた早川の海などが、心のどこかに刷り込まれているのかもしれませんね。

心に残る映画の風景としては、大好きな映画、黒澤明監督の「天国と地獄」のクライマックスで、酒匂

川鉄橋上で車窓から身代金をやり取りする場所。高校時代の通学路で、映画部でも実際にこの場所での撮影をしました。母の実家にも近く、今でも当時の景色が思い出されるので、やはり



高校時代の通学路だった、映画「天国と地獄」にも取り上げられた酒匂川の鉄橋

映画プロデューサー
小田原映画祭実行委員(小田原市出身)
露木栄司さん
小田原の風景を全国区へ

昔は道路が狭くて、運転に気を使いました。40年以上前、路線バスを運転していたころの道は、舗装が悪かったから。特に旧専売公社から船原までの道は舗装もされていなかったんです。お客さんの乗り降りで開くドアから入った砂ぼこりで、1日の運行が終わると、ひざから下は真っ黒になりました。それに、市役所前でも停車していると後続車が追いつ越していけないほどでした。狭い場所ではどっちが後退したほうがいいのか、よく悩みましたよ。

雪が積もったときなどは、道沿いの竹が重みでしななって、道をふさいでしまい、乗っていた車掌が雪をどかしに行ったこともありました。今ではワンマンバスになっていますが、当時はドアの開け閉めや乗車賃を集めて切符を切る車掌と、二人一組で運行していましたから。

昔は市役所や市立病院の場所は養魚場やナシ畑でしたし、家も少なかったんです。バスは地域住民の足代わりでし

昭和30年代の旧専売公社付近
(写真提供:日本たばこ産業株式会社小田原工場)



たから、乗客の顔やどこで乗り降りするかも、一人一人分かっていました。それが今や市役所、市立病院のほかに税務署や警察署までできています。それに道路も素晴らしくなりました。時代の流れとはいえ、すごい変化ですね。これだけ長くバスを運転していたのは、大好きな小田原の公共交通機関を支えているという思いが強かったからでしょうか。だからこそ、運転し慣れた久野地域の風景をよく覚えています。やっぱり車窓からの久野の風景が、私の原風景になりますかね。今でも目を閉じると、でこぼこ道と当時の車窓が鮮やかに浮かんできますよ。



ボンネットバスの前で当時の車掌と(左が植田さん)

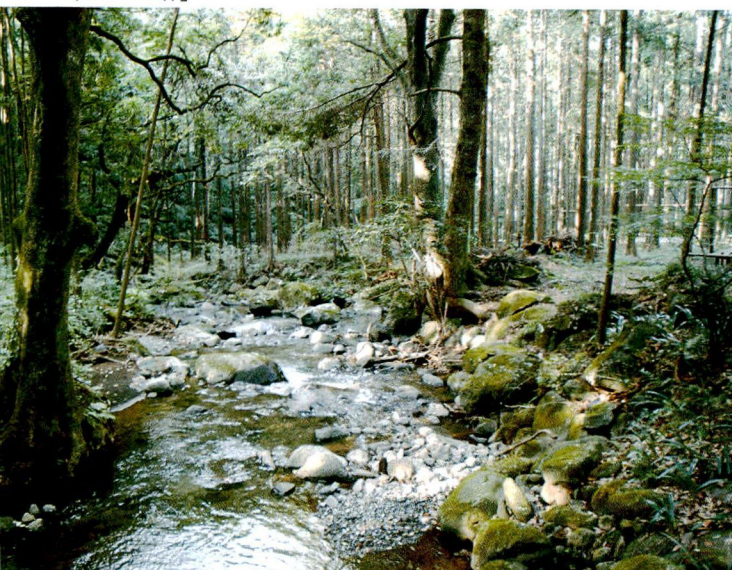


昭和37年から平成10年まで伊豆箱根鉄道(株)小田原営業所で主に小田原駅と久野船原間のバスの運転手を勤める。

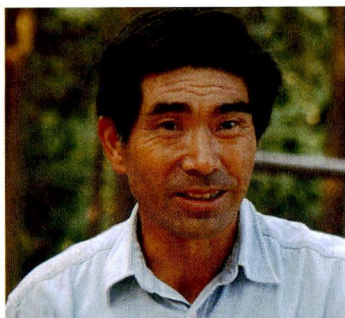
元バスの運転手(扇町在住)
植田昌弘さん
車窓から見たまちの発展



大森さんが見守っている、久野の「いいの森」



だから、自分にとつての原風景はやっぱり山、緑あふれる山の風景。森が水をつくり、生命をはぐくむといえますから、私の仕事場がこの地域のすべての源になるのかな。今、小田原の山には針葉樹が多いですが、ゆくゆくはケヤキなどの広葉樹林も育て、小鳥などがもつと帰ってくるような山にしたいですね。



昭和60年から森林組合で、山林の維持などの仕事に携わっている。大森さんたちが精魂を込めて作った木製品は森林組合で購入できる。

山を見守る木の達人

大森良
さん

森林組合職員(久野在住)

秋田の山近くで生まれ育ちましたからね、小田原に出てきたときもそんなりとこの山の仕事と雰囲気は溶け込みました。もう20年になります。山の仕事は命懸けです。おかげで、いつの間にか危険を察知する能力が身につきました。ハチや蛇など、危険な動物はもちろん、雷や倒木など、絶えず気を配る必要がありますからね。それでも山の仕事を続けているのは、先輩たちの話や知恵を聞いているうちに、面白くなっているからでしょう。夢中で仕事をしているうちに、小田原の山々に首ったけ

です。このごろは、朝起きたらすぐに山に入り、枝打ち、下草刈りから間伐、そして製材やベンチといった製品づくりなど、暗くなるまで仕事をしています。ペア

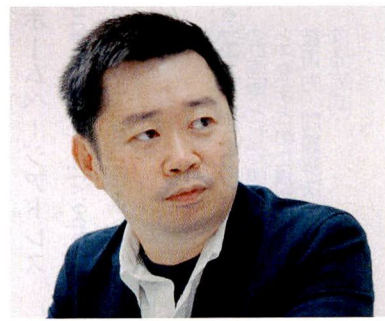
を組んでいる栢沼良さんと二人三脚で一つ一つ仕事をこなしています。枝打ち一つとっても難しいんです。そのときはうまくできたようにみえても、何年か後に伐採して材木にしたらしみになっていいることもありま



露木さんが利用していた昭和50年代前半の鴨宮駅南口

酒匂川や鴨宮の周辺が心に残る原風景なのでしょうね。当時と比べると、いい意味でも悪い意味でも小田原駅周辺は本当に変わりました。学生時代に寄り道した店もなくなっています。だからといって、昔の風景だけがいいということではありません。まちは住んでいる人に合わせて変わっていくもの、それは城下町だからといって例外ではないと思います。住んでいる人たちの考えで

変わっていったはずですから。それに昔の風景だって映像で見られますからね。小田原が映像として切り取られた例は、意外と少ないんです。東京からすぐ来ることができると、お城だつてこの辺りにはあまりないのに。小田原には絵になる風景はまだまだあるはずだから、掘り起こしていきたい。私が小田原で始まった映画祭にかかわっているのはそのためですから。これから、古い映画はもちろん、新しい映画でも小田原の風景を見てみたいですね。



幼少期を小田原で過ごし、西湘高校を経て大学卒業後、映画の世界へ。映画専門学校の新シネマワークショップ講師やプロデューサーとして若手クリエイターの育成に当たっている。

（仮称）城下町ホール 基本構想へのご意見と 市の考え方をお知らせします

問 文化交流課 ☎ 33 1705

（仮称）城下町ホールの基本構想について、市民の皆さんのご意見を募ったところ、7月に行った市民説明会やほか、電子メールなどにより、500件近くのご意見が寄せられました。利用者や鑑賞者としての視点からの意見や、まちづくりの視点からの意見など、さまざまなものでした。

代表的なご意見を紹介し、それらに対する市の考え方をお知らせします。

① 基本理念や目指すべき方向性

「音響などの機能面が充実したホールを早く整備してほしい／市民の芸術文化活動を支援するとともに、気

軽に集まり楽しめるようなホールにしてほしい」

→ 小田原のシンボル・都市の顔として、市民の誇りとなるような質が高く、充実した施設を目指して、早期に整備します。

② 計画区域

「ほかの敷地での整備を検討してほしい／最高の立地場所だ／敷地が手狭だ」

→ 計画区域である三の丸地区は、小田原駅に近く、自然と歴史が調和した地域であり、市民の皆さんが気軽に訪れることができます。また、まちなかの

設計者を選定します

平成19年度の建設着手に向けて、基本設計に取りかかります。

設計者の選定は、建築、劇場設計、景観に関する学識経験者などで構成する設計者選定委員会を設置し、公募による※エスキースコンペを行います。2次審査では、公開によるヒアリングを行います。

スケジュール

1次審査結果の公表 12月上旬～中旬
2次審査（公開ヒアリング） 12月18日①
選定結果の公表 12月下旬

（仮称）城下町ホール設計者選定委員会

（敬称略）

委員長

藤森照信

（東京大学生産技術研究所教授）

副委員長

市橋匠（市助役）

委員

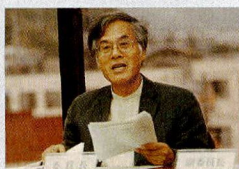
伊東豊雄（伊東豊雄建築設計事務所）

松村みち子

（市景観審議会委員、タウンクリエイター）

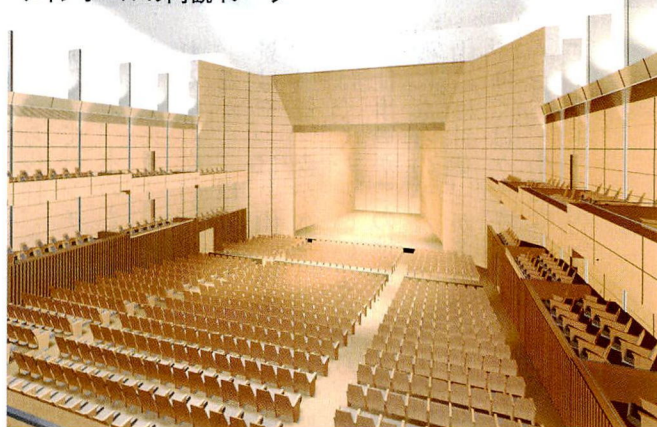
本杉省三（日本大学理工学部教授）

坂本恵三（市企画部長）



藤森照信委員長

メインホールの内観イメージ



回遊拠点となる重要な位置です。

そこで、市民会館の現状や早期事業化の観点などから、基本構想のとおり「めがね橋臨時駐車場」「小田原警察署跡地」「消防署中央分署」の三つの敷地に建設します。

隣接する周辺区域は、ホールと一体となったエリアとして、将来的に必要な区域と位置づけているので、取得に向けた協議・調整を進めます。

③ メインホール

「多機能・多目的ではなく、音響性能の優れたホールにしてほしい／幅広いジャンルに対応できるホールを」「メインホールの規模をもっと大きく／大きすぎる／理想の大きさだ」

→ 県西地域のメインホールとして、多様な演出に対応できる多機能ホールでありながら、音響性能の高いホールとして整備します。客席規模は、芸術鑑賞の場として、上演者の表情などが客

席から見えることや豊かな音響が実感できること、そして、市民文化活動の発表の場としての使いやすさなどを重視し、1300席から1350席程度とします。

④ サブホール

「サブホールは200席では少なすぎる／芸術性を高めたホールに／多様性を／展示機能が不十分だ」

→ 汎用性や開放性の高いホールとする。また、音響面や設備面を充実します。また、近隣の小ホールや市民会館小ホール（300席）の利用状況などを踏まえ、規模の拡大を検討していきます。このことにより、展示など、ほかの用途への適応力も高まると考えています。

⑤ 附帯施設

「楽屋や練習室、ロビー、サービス部門の充実を／駐車場の整備をしっかりと」

→ 多くのかたが利用しやすい設備・機能を、基本設計を進める中で具体的に検討していきます。

ほかにもたくさんのご意見をいただきました。詳しくは、ホームページに掲載します。

ホームページアドレス

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/houru3.html>

※「エスキースコンペ」…設計趣旨やエスキース（計画案として建物のイメージ図などを描くこと）をまとめた構想提案書に基づき、創造性や技術力・問題解決能力に優れた設計者を選定する方式

元気で魅力あふれる商店街を 再生します

～おだわらルネッサンス推進本部事業～

問 産業政策課 331511
おだわらルネッサンス推進本部(企画政策課内) 331315

コミュニティネットワーク事業

おもてなしマイスター育成事業

市内には全部で18の鉄道駅があり、それぞれがその地域の核として、人々の暮らしに密着した身近なまち並みをつくっています。本市では、こうした市街地を「核市街地」と定義して、活力ある地域づくりの拠点として支援していきます。

今年度は、国府津・下曽我・富水の3地区をモデル地区とし、商業の活性化を目的として、商店街と行政の協働のネットワークを作り出すため、それぞれの商店街から推薦を受け、エリア・マネージャーを決定しました。商業の活性化につながるさまざまなアイデアを掘り起こし、実現に向けて検討していきます。

エリア・マネージャーは次のかたがたです。

【国府津地区エリア・マネージャー】 斎藤良夫さん
【下曽我地区エリア・マネージャー】 市川義次さん
【富水地区エリア・マネージャー】 荻野重伸さん



一方、城下町として長い歴史と伝統が息づく小田原駅周辺市街地(中心市街地)での商業を、さらに魅力あふれるものにするため、おもてなしマイスター育成事業を始めます。やる気のある商業者に、もてなしの心を育てるための講座などを受講していただき、「おもてなしマイスター」として認定します。店主の魅力により、商業の活性化をすすめるながら、おもてなしマイスターが中心となつて、市民や観光客の皆さんに愛される店づくり、再び訪れてみたくなるまちづくりを目指します。

小田原城本丸広場 環境整備事業が始まります

～おだわらルネッサンス推進本部事業～

問 観光課 23-1373



撤去予定の旧熊舎など

城址公園内の小田原動物園では、使用していない動物舎や傷みの進んでいる鳥舎などを、動物の移転を進めながら整理していくことになりました。

小田原動物園は、戦後間もない昭和25年に開園し、半世紀もの長い間、大勢の市民や観光客に親しまれています。

しかし、小田原城跡が昭和34年に国指定史跡に指定され、平成5年策定の「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」では、史跡にふさわしくない施設を順次整理していくという方針を打ち出しました。

そのため、動物園施設の拡充や大規模な改修は行わずに運営を続け

てきましたが、年月の経過とともに動物舎などの老朽化が進んでいます。そこで、本丸広場の環境を改善するために、今年度は天守閣北側の旧熊舎と鳥舎を撤去します。撤去後は、市民や観光客の皆さんの憩いのスペースとして、ベンチなどを置く予定です。

また、ほかの動物舎も(社)日本動物園水族館協会など、関係機関を通じて動物の移転先を探しながら、時間はかかるとはありますが、来年度以降順次進めていきたいと考えています。

なお、開園以来今も元気な象のウメ子は、これからも本丸広場で来園者をお迎えします。

15年ぶりに 市税の収納率アップ!!

市税総務課 ☎ 33 1 3 4 5



森谷辰雄さん

収納率の比較

年度	現年度の 収納率	滞納繰越分も 含めた全体の 収納率
平成15年度	98.00%	91.21%
平成16年度	98.29%	91.72%
上昇ポイント	0.29	0.51

平成16年度は、現年度分の収納率と滞納繰越分を含めた全体の収納率が上がりました。

これは、休日や夜間の電話催告、訪問しての徴収、休日窓口開設のほか、財産の差し押え・公売などのさまざまな取り組みによるものです。中でも特に徴収指導員による滞納整理事務の指導が大きな要因といえます。

そこで、国税局OBで平成12年度から徴収指導員として職員の指導・サポートをしている、森谷辰雄さんにお話を伺いました。

「市税総務課の職員が、徴税事務という特殊な仕事に対する責任を自覚し、行動しています。この仕事は、努力をすればすぐに結果の出るものではありませんが、組織としての能力が上がってきているのは明らかですよ。今回の数字も、2年前から具体的な目標を持ち、勉強を重ねて取り組んできた結果ですから、当然のことだと思っています」と職員の地道な努力を優しく語る森谷さんの言葉からは、日ごろの丁寧な指導と人柄のよさがうかがえました。

おだわらインフォメーション

Odawara Information

市民活動って、 なあに？

地域政策課 ☎ 33 1 7 0 8
市民活動サポートセンター ☎ 22 8 0 0 1

最近急に聞かれるようになった「市民活動」。「一体どういうものなの?」というかたも多いのではないのでしょうか。

「市民活動」とは、市民の皆さんが自主的・自立的に行う、営利を目的としない、公益性のある活動のことです。

それは、決して難しいものでも特別なものでもありません。一人一人ができるかたち・範囲で社会にかかわること、一般に「ボランティア」といわれる活動も含まれます。また内容も、福祉、環境、社会教育、国際協力、子育てなど多種多様です。

「市民活動」が盛んになってきている背景には、社会環境が変化し、複雑な問題・課題が生じる中、解決に向けて、自分も何かしたいという気運の高まりがあります。

また、技術や能力を持ったかたが多く退職する時代、いわゆる「2007年問題」を前に、そうした皆さんの活躍の場としても注目を集めています。

市でも、より住みやすい豊かなまちづくりにつながる、新しい力になるとして、「市民活動」を支援するさまざまな事業を行っています。

■市民活動の拠点です

「市民活動サポートセンター」

市民活動の支援拠点として、市民会館4階に「市民活動サポートセンター」を開設しています。打ち合わせや作業ができるスペースや印刷機などの機材があります。また、活動に関する相談・情報提供なども行っています。

ホームページアドレス

<https://www2.city.odawara.kanagawa.jp/ssc/odawara/index.jsp>

■資金不足に困っていませんか?

「市民活動応援補助金」

「取り組みたいことはあるけれど、活動資金が足りない」といった団体を支援する「市民活動応援補助金」の制度があります。毎年4月に募集を始め、書類や公開のプレゼンテーションで内容を審査し、交付事業を決定しています。

■もっと市民活動を身近に

「第1回サポセン祭り は♡に♡わ

はなやかに にぎやかに わいわいと」

11月26日(土)10時～15時 マロニエ
さまざまな市民活動団体が集まる初めてのイベントです。



放置自転車のないまちに

お願い！ そこに自転車を 置かないで！

NEWS 1

11月21日(月)に
小田原駅東口自転車駐車場が
オープン

受付日

11月19日(土)から毎日
(日曜・祝日を除く。ただし、

20日(月)は受け付けます。)

受付時間

6時30分～20時

受付場所

小田原駅東口自転車駐車場内

利用時間

24時間

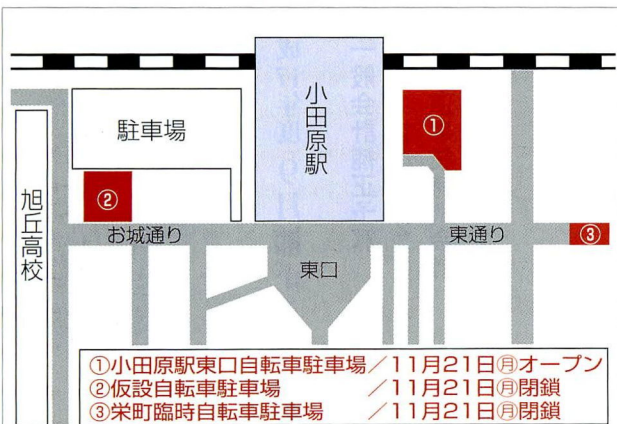
利用料金

	自転車1階	自転車屋上	ミニバイク1階
定期利用1か月	1,800円	1,300円	2,500円
定期利用3か月	5,100円	3,600円	7,200円
定期利用6か月	9,900円	6,900円	14,100円
一時利用1日/1回	—	100円	200円

※ただし、上記料金のほかに11月分(11月21日～30日)の料金(自転車1階600円、屋上430円、ミニバイク1階830円)が必要です。

※受け付けは先着順、一人1台です。申し込みの際には、料金をお持ちください。申込書は、その場で記入していただきます。一時利用を希望される場合は事前申し込みをする必要はありません。

自転車駐車場位置図



NEWS 2

臨時自転車駐車場の閉鎖

東口自転車駐車場の利用開始に伴い、東通り入口交差点そばの「栄町臨時自転車駐車場」とお城通りの「仮設自転車駐車場」を11月21日(月)に閉鎖します。一定期間経過後も置いたままの自転車は、国府津自転車等保管場所に移動します。

路上などへの自転車などの放置は、まちなかの景観を乱します。また、歩行者の通行を妨げ、交通事故を誘発したり、非常時に緊急車両の通行の障害になったりするなど、多くの危険性があります。市では、放置自転車問題を解消するため、自転車駐車場の整備を進めると同時に、駅前などの放置自転車が集まる場所を「自転車等放置禁止区域」に指定し、放置自転車を撤去しています。

問暮らし安全課 331396

NEWS 4

自転車駐車場
利用料金の改定

小田原駅東口自転車駐車場の利用開始に合わせ、以下の自転車駐車場の利用料金を改定(値下げ)します。

詳しくは、各自自転車駐車場でお問い合わせください。

駐車場・改定日

○小田原駅西口第1と第2

12月1日(木)

○上記以外

平成18年4月1日(土)

小田原駅東口自転車等放置禁止区域



..... 小田原駅東口自転車等放置禁止区域
※12月1日(木)以降、放置自転車などは即日移動します。
—— 小田原駅西口自転車等放置禁止区域(指定済み)

NEWS 3

小田原駅東口が
自転車等放置禁止区域に
指定されました

12月1日(木)以降、区域内の公共の場所

(駅前広場・道路など)に放置されている

自転車などは保管場所に移動します。

対象 自転車・原動機付自転車(50cc以下)

保管場所 国府津自転車等保管場所

☎ 493798

市議会 9月定例会

総務課 33 1 2 9 1
財政課 33 1 3 1 3



市議会9月定例会は9月1日から10月7日まで開かれました。審議された主な内容は次のとおりです。

- 専決処分の承認について(平成17年度小田原市一般会計補正予算)
- 平成17年度小田原市一般会計補正予算
- 平成17年度小田原市下水道事業特別会計補正予算
- 小田原市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例
- 小田原市一般職の任期付職員の採用等に関する条例
- 小田原市農業委員会に関する条例の一部を改正する条例
- 小田原市手数料条例等の一部を改正する条例
- 小田原市民会館条例等の一部を改正する条例
- 小田原市公設地方卸売市場条例の一部を改正する条例
- 小田原市公民館条例の一部を改正する条例
- 小田原市立病院の診療報酬等に関する条例の一部を改正する条例
- 小田原市火災予防条例の一部を改正する条例
- 工事請負契約の締結(平成17年度都市計画道路栄町小八幡線竹橋架け替え工事)

● 工事請負契約の変更(平成16年度小田原駅東口駅前広場整備工事)

- 学校施設の取得(小田原市立三の丸小学校屋内運動場棟地下1階部分)
- 訴えの提起
- 平成16年度小田原市一般会計継続費精算報告書の報告
- 平成16年度小田原市水道事業会計継続費精算報告書の報告
- 平成16年度小田原市一般会計歳入歳出決算ほか(全13会計)の決算の認定
- 湯河原厚生年金病院及び湯河原厚生年金保養ホームの存続を求める意見書
- 自治体病院の医師確保対策を求める意見書
- 米国産牛肉等の拙速な輸入再開に反対し、BSEの万全な対策を求める意見書
- 都市農業の確立に関する意見書
- 教育委員会委員(青木秀夫さん)の任命(同意案)

平成17年度9月補正予算の概要

● 一般会計補正予算

(5億5223万8千円追加)

● 下水道事業特別会計

(9000万円追加)

● 全会計の予算額

1428億2437万4千円

補正予算の主な内容は、次のとおりです。

○ 指定管理候補者選定委員会の設置

平成18年4月1日から指定管理者を設置する公共施設について、指定管理者の選定を行うための委員会を設置します。

○ 老人福祉施設等整備費補助金の増額

(仮称)社会福祉法人祥風会が特別養護老人ホーム「芳徳の郷ほなみ」を、医療法人社団敬仁会が介護保険施設「悠久」を設置するための整備費の一部をそれぞれ助成します。

○ 尾崎一雄邸書斎移築等工事請負費の計上

小田原が生んだ作家で文化勲章受章者の故尾崎一雄邸の書斎を小田原文学館敷地内に移築し、保存します。

なお、「寄附者一覧」のとおりご寄附をいただきましたので、そのご意思を生かせるように、各基金に積み立てるとともに、事業費を計上しました。

【寄附者一覧】(敬称略)

◆ ふるさと文化基金寄附金

(合計33万3179円)

- △ダンスサークルマーガレット
- △神奈川県小品盆栽連合会
- △小田原水墨画協会
- △小田原市土木建設協同組合
- △有限会社浩児プロ

◆ 防災対策基金寄附金(合計25万円)

- △小田原市土木建設協同組合

◆ 社会福祉基金寄附金

(合計32万5267円)

- △小田原市土木建設協同組合
- △小田原市東千代特定土地地区画整理組合
- △北村俊一
- △あゆみ会
- △匿名2件

◆ ふるさとみどり基金寄附金

(合計85万1956円)

- △エコライフフェア運営事務局
- △あいおい損害保険株式会社
- △小田原市土木建設協同組合
- △湘南ステーションビル株式会社
- △コミュニケーション倶楽部

【御幸の浜】

今回の特集のテーマ「小田原風景考」は、年度当初から編集部一同で温めていたものでした。

方針作りには、すぐに取り組んだものの、あつという間に締め切りが迫り、夜が白々と明けるまで「風景考」について熱い議論を交わしたり、ドリンク剤を片手に写真選別に何日も倉庫にこもったりするなど、切り口や主張の見せ方などテーマとしてはかなり難しく、予想以上に時間のかかるものとなりました。

最後までこだわったのが、この表紙。市内のあちこちで苦勞して撮影した自信の作品をみんなで持ち寄り、あれはこれと協議しましたが、やはり最後はこの御幸の浜の風景が選ばれました。海と山に抱かれ暮らしている私たちにとって、このような海岸の風景は、見慣れたものであり、また思い出を彩るものです。

昔から、海水浴場としてにぎわう御幸の浜ですが、別荘や旅館が立ち並び保養地という顔も持っていました。

左上の写真は大正時代に撮影されたものです。奥に見える洋館は、初代総理大臣伊藤博文の別荘であった「滄浪閣」です。表紙の撮影ポイントをこの写真に当てはめてみると、左側に少し見える海岸辺りでしょう。伊藤博文は、この民法起草の地、滄浪閣で海を眺め、何を思ったのでしょうか。

なお、明治29年2月、伊藤博文が大磯に滄浪閣を建築し、小田原を去ったあと、建物は明治35年の大津波で破損し、さらに大正12年の関東大震災で倒壊してしまいました。

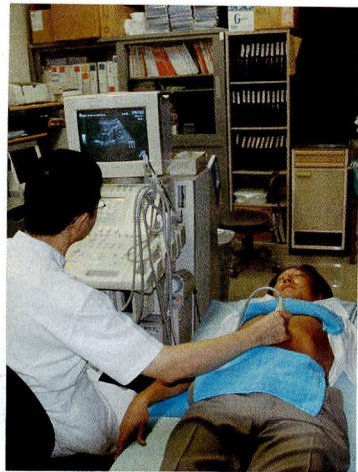
現在、滄浪閣跡は庭の一部が残されていて、伊藤博文の胸像と「滄浪閣跡」の碑が建立されています。時代を超えて思いをはせてみてはいかがでしょうか。

早期発見があなたを救う!! 市立病院がPETを導入 がん人間ドックを始めます

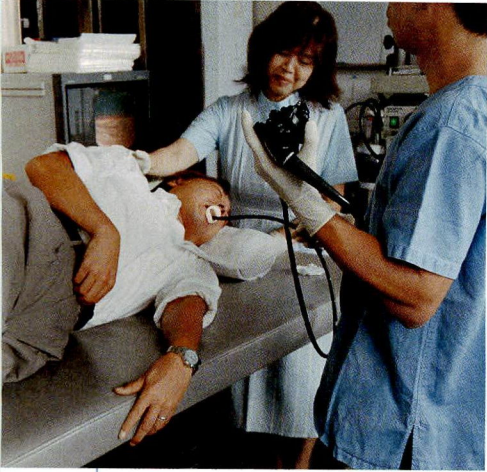
申込 市立病院 ☎ 33175 (内線5236)

近年、日本人の死因の上位を占めるようになった「がん」から身を守るためには、生活習慣の改善による病気の予防に加え、がんの早期発見と早期治療が大切であるといわれています。

そこで当院では、県西地区で初めて導入するPET(陽電子放射断層撮影)を含めた総合がん検診を始めます。



腹部エコー検査



上部内視鏡検査

PETは、現在導入作業中のため、一部のコースを先行して始めます。

〔12月から始めるコース〕

●ベーシックコース(半日)

【腹部エコー、上部内視鏡、胸部CT、血液・尿・便潜血の検査】

料金 50,420円(税込み)

●オプション(女性専用)

【骨盤MRI】

料金 12,810円(税込み)

実施日 木・金曜(祝日を除く)

申込方法

受診希望日の2週間前までに、来院または電話で(オプションのご希望も必ずその際に)

受付時間

月・金曜(祝日を除く)

8時30分～正午

13時～16時30分

妊娠中、またはその可能性のあるかた、がんと診断され治療中、または経過観察中のかたは受診できませんので、ご注意ください。

PETを活用したコースは来春開始する予定です。



大正10年ころの御幸の浜を望む

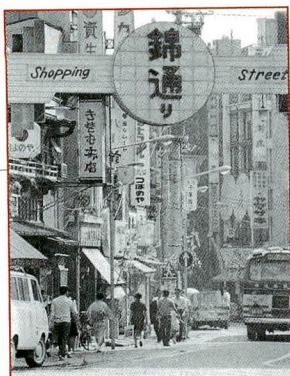


滄浪閣跡にある伊藤博文の胸像

錦通り

ちょっとモダンな
ショッピングストリート

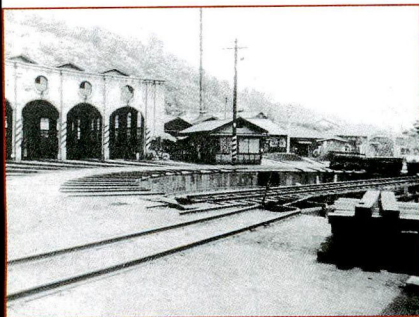
思わず見上げてしまうビルが立ち並んでいる雰囲気が、都会的な香りを醸し出す錦通り。今でも、このころの雰囲気がありますね。



国府津機関庫

国府津機関区の
シンボルは
扇形の美しい建物

鉄道施設としては、日本初の鉄筋コンクリート建造物でした。昭和50年ごろまでは、機関庫がありましたね。



仲見世通り

子ども心に思い出すのは
「不思議な空間だった」

屋根のある通りで、独特の雰囲気がありました。お店からの威勢のいい声が懐かしく思い出されます。「安いよ、いらっしやい!」

小田原

懐かし写真館

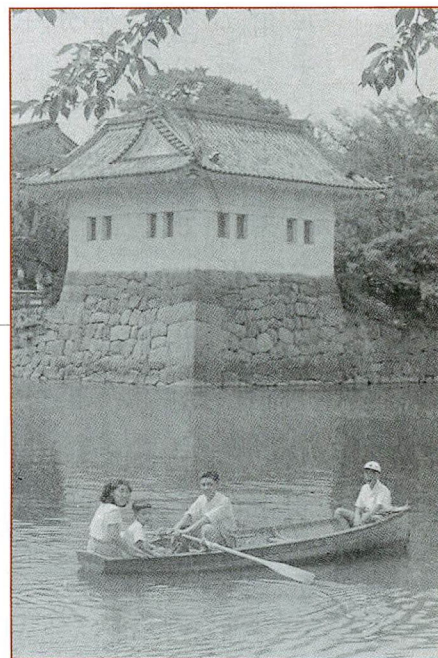
30年から40年ほど前の写真を集めてみました。若い人は「え? こんなだったの?!」と驚いてください。「懐かしい」と感じた人は、そのころの自分を思い出してみてください。時は、いつのまにか流れているものですね…。



お堀の ボート

初めて
ボートをこいだ
反対に進んだ

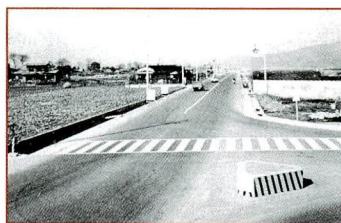
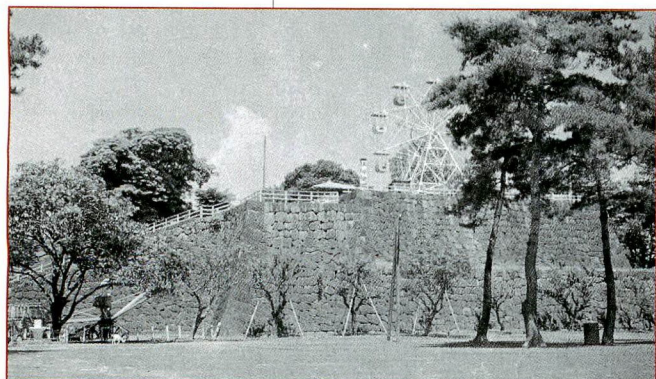
「お堀でボートのこぎ方を教わった」という年配のかたも多いと思いますが、最近復活しているのをご存じですか? お堀端商店街振興組合の皆さんの手により、11月30日まで営業しています。



昭和33年の写真です。今からすると奇妙ですが、観覧車があります。遠く相模湾が見渡せることで、人気がありました。天守閣が復興されたのは、昭和35年です。

天守閣のない 天守閣広場

これぞお宝写真!
天守台に観覧車が…



国道255号 飯泉交差点

ナシ畑の真ん中に
道路ができた

時代の流れを感じ
る1枚です。写真右下にある
台で、お巡りさん
が交通整理をし
ていたのでしょう。

レンゲ畑

子どもたちに伝えよう
草の香り、土の感触

この写真の中の少女が今のあなたであったとしても、写真が白黒であること以外は違和感を感じないでしょう。変わらぬ風景がここにもあります。

